

完全屋内飼育を！

「猫は外で自由に暮らすのが一番」という考えを耳にすることがありますが、そうではありません。

△外の世界は危険がいっぱいです

- ①飼い主のいない猫（野良猫）からさまざまな病気をうつされます
- ②交通事故で死ぬ猫があとを絶ちません
- ③近隣の庭でフンをするなど、近所に迷惑を掛けてしまい、町の嫌われ者になります

猫は、屋内飼育に十分適応できる動物です。大切な猫のため、屋内だけで飼いましょう。

屋内飼育に切り替える方法

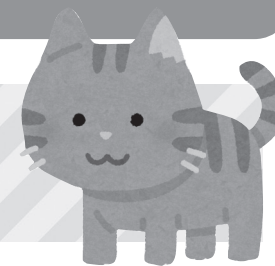
- ①大型のケージに猫を入れ、当分の間、ケージの外に出さないようにして飼育します
- ②数か月すると、猫のテリトリー認識が変更されるため、ケージの外に出しても屋外に出たがらなくなります

猫のトイレをつくらう!!



■問合せ 町内会連絡協議会・町民課町民生活係（☎ 47-2203 役場 1階 窓口 1番）

猫を飼っている方へのお願い

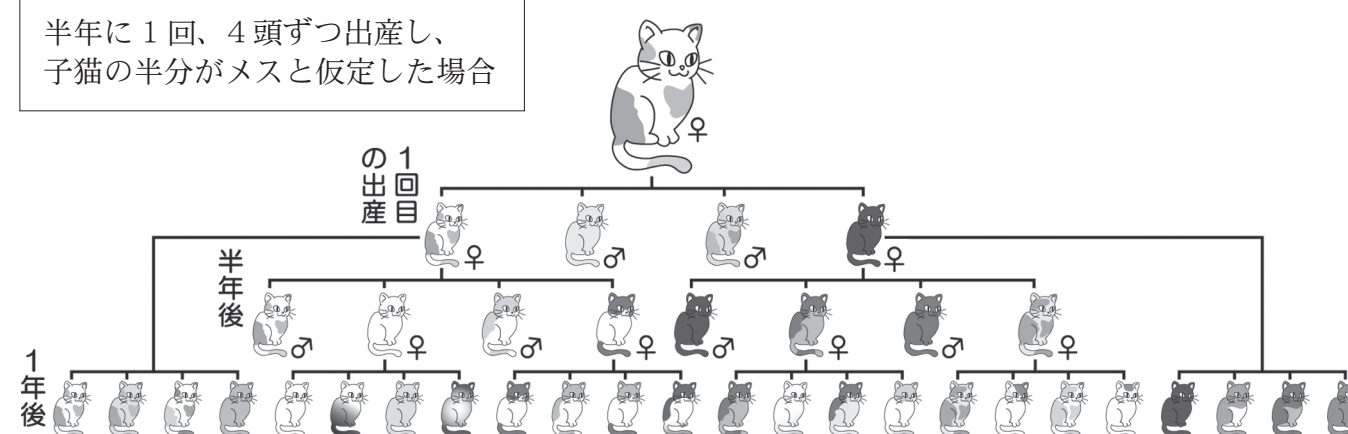


猫を飼っている方にとって、猫は大切な家族であることと思います。
家族同然の大切な猫が地域の嫌われ者にならないよう、ぜひ次のことにご配慮ください。

去勢・不妊手術を！

去勢・不妊手術をしないと、異性を求めて大声で鳴くなどにより、飼育が非常に困難になります。屋内で飼育しきれずに屋外に出したり、猫が異性を求めて逃げ出したりすると、外で子どもを作ってしまうです。（猫の妊娠率はほぼ 100%）

下図のとおり、猫は繁殖力が強く、いったん外で猫が生まれると、地域は猫だらけになります。



※メス猫は年に 2～3 回、1 回につき 3～5 頭出産します。
メスの子猫は生後 6 か月程度で最初の出産をします。
上図は理論値です。実際には、成猫になる前に死亡する猫がいます。

「ウチの猫はオスだから手術は不要」というご意見もありますが…

猫は発情期に大声で鳴き、飼育が困難になります。

また、屋外に逃げてメスを妊娠させ、飼い主のいない猫（野良猫）が増える原因になります。オスも手術が必要です。

「手術なんてかわいそう」というご意見もありますが…

繁殖期に交尾できないことは、動物にとって大きなストレスとなります。手術をすれば、愛猫は繁殖のストレスを感じずに、快適に生活できるようになります。

また、未手術の猫が外に出て交尾をすると、地域が猫だらけになります。屋外で生まれた子猫は、カラスに食べられたり、交通事故に遭うなど過酷な運命が待っています。

飼い主のいない猫（野良猫）の多くが、病気や交通事故などで 4～5 年で死亡するといわれています。（飼い猫の一般的な寿命は 15 年程度）

猫を愛すればこそ、去勢・不妊手術は欠かせません！